

えがお



令和4年度
No.4
10月21日

伊那市
よりよい
教育環境
推進連絡会

進化II新時代

伊那警察署生活安全課長 中村裕輔

貴方がスマートフォンを手にしたのは、いつ頃でしょうか？

2008年にiPhoneが日本で発売して以来、若男女問わず、スマートフォンを使って、いつ、どこにいても、片手一つで様々な情報をすぐに得られる「情報収集新時代」が到来しました。

スマートフォンの普及率を見ると、2010年では4.4%でしたが、わずか12年で88%と爆発的な広がりを見せ、もはや生活からは切り離せないツールとして定着したと言えるでしょう。

スマートフォン普及の要因の1つが「SNS」です。Twitterから始まったこのサービスは、今や形を変えた様々なアプリが存在し、自分発信や友達との交流など、新たな人間関係の構築ができるようになりました。

SNSは、日常におけるコミュニケーションの枠組みを大きく変え、現実では出会えない地域や国籍、年齢など不特定多数の人と、新たなコミュニケーションの場を生み出しました。

SNSの中でも代表的なものが「LINE」です。わざわざ声で会話する必要がなく、文字やスタンプで友達と会話ができる気軽さが当時の若年層で広まり、今ではSNSと言えばLINEを思い浮かべる人が多いのではないでしょうか。

LINEは、それまでの「電話による声の通話」から「リアルタイムの文章や絵での会話」へと、「情報伝達新時代」をもたらしました。

2017年の流行語大賞で選ばれたのは、「インスタ映え」というワードでした。

今の若年層は、LINEよりもインスタ、つまりInstagram（インスタグラム）を主に使っています。

LINEは特定の相手との連絡ツールとして有効ですが、インスタは、ストーリーズ（動画や画像が投稿できる）という機能をはじめ、日頃の情報を伝えることに向いており、連絡ツールとしてもDM（ダイレクトメッセージ）がその役目を補完しています。

LINEでのやり取りは1対1が基本なので、個人とのやり取りが面倒臭いなどの理由で、家族との連絡など必要な時だけ使う、という人が増えています。

LINEの全盛期は2016年までと言われており、10代から20代が使うツールとしては、もう古いものになっているのです。

インスタは、ストーリーズを使って、自分の動画や画像を発信して相手とのコミュニケーションが始まることから「情報発信新時代」の象徴と言えます。

ストーリーズの特徴は、投稿後、24時間投稿した動画が自動的に消えることです。

投稿している本人は、気軽に日常を切り取り一方的に投稿でき、相手も勝手に良い・悪いを判断し、繋がるのも離れるのも自分本位で決められる、「情報発信」に特化しています。

このように、数年で新しいコミュニケーション方法が生まれ、それに対応したツールが発表され、拡散・利用されることで、常に新しい時代が作られていくのです。

使い慣れたツールであれば、その危険性も理解できるでしょう。

しかし、次々と新しいツールが生まれ、それを利用することが同世代での共感と仲間づくりに必要な現代で、危険性に気付き、適正に対応することはかなり難しい作業です。

全てのSNSに対応する取扱説明書があれば、どんな問題が起きてもすぐに解決できるかもしれませんが、

しかしネット社会は日々進化しており、追いつくだけで精一杯、というのが実情です。

子供達はこうした様々なツールを使いながら生活していますが、子供達自身もその危険性を全て理解しているわけではなく、利便性のみで危険性まで考えていないこと、他人事として簡単に考えていることが多いです。



放送を聞いて机の下にもぐる園児



防災頭巾をかぶります

情報を発信することは相手に自分をさらけ出すのと同じであり、悪意ある人間は思いもよらない内容や方法で暴き、攻撃してきます。

また知識がないため、自分にその気がなくても犯罪の被害者や犯人になる危険性があることを、まず保護者や周りの大人がしっかりと学び、それを子供達に伝えることが大切です。

インターネットの世界は、いろいろな情報や世界をつなぐ、海のようなものです。

そこは大人も子供も関係なく、全てが平等で自由であり、どのツールを使ってどの情報を獲得のかは、その人自身に委ねられ、その責任も同時に負うこととなります。

新しい世界の扉を開けたとき、人は希望を胸に前を向き進もうとします。

子供達が新時代の海に漕ぎ出した時、その傍らで見守る大人は、ぜひ彼らの足下に広がる危険に目を向け、回避できるよう導く羅針盤となっていたきたいと思えます。

長谷地区

保育園・小学校・中学校 合同避難・引き渡し訓練



九月一日(木)、長谷保育園(四十名)・長谷小学校(五十三名)・長谷中学校(三十名)の合同避難訓練及び受け渡し訓練がありました。

当日は、台風十一号の影響で雨天だったため、保育園は独自で訓練を行いました。小中学校は予定通り、合同で実施しました。

保育園では、地震があった放送を聞いて、机の下に避難して、地震がおさまったら、防災頭巾をかぶって安全な場所に避難しました。みんな騒がずに、落ち着いて、保育士の先生の指示に従って、上手に避難ができました。



小学生の到着を静かに待つ中学生



非常ベルで机にもぐる児童



中学校へ移動します



保護者が受け渡し票を記入

保護者は生徒玄関で引き渡し票を記入し、担任が児童と保護者を確認して、児童・生徒の引き渡しをおこないました。

小学校でも、非常ベルが鳴ると、机の下にもぐり、避難をして、地震がおさまった後は、玄関前に整列して、人員点呼をした後、中学校に移動しました。中学校では、中学生が小学生の来るのを静かに待っていました。小学生が地区ごとに並び替えた後、地区ごとに整列している中学生と並び替えた後、保護者の迎えを待ちました。

同じ地域の保育園・小学校・中学校が合同で訓練をする事は、保護者が仕事で長谷地区にいない状況での災害発生時に、保・小・中で協力して、中学生が園児や児童の面倒をみたり、何らかの救援活動を手伝ったりする場合があります。

この訓練で、小学生は中学生が訓練に緊張感をもって取り組む姿に学び、中学生は自分たちが守る存在がいるという意識を持つことができたのではないかと思います。この日、長谷中学校玄関の黒板には、「本日、保小中合同の避難訓練が行われます。自分自身の命を守るは大前提として、園児や小学生の前に、訓練の緊張感をどう伝えるのか、それも、中学生の大事な役割だと思えます。地域のために中学生ができること、総合や縁側以外でも、中学生が貢献できることがあるのではないのでしょうか。」と書かれていました。生徒の皆さんは、毎朝登校すると、この黒板の前に立ち止まり、書かれている言葉を読んでいるということです。

「命を守る活動」と共に、異年齢間での学びがあったり、地域の繋がりを意識できたりする訓練だと思いました。

長谷保育園・小学校・中学校の皆さん、ありがとうございました。

高遠小学校六年「石の学習」

高遠小学校六年生(担任 宇津大地 先生、児童数三十四名)は、総合的な学習の時間に、「石」をテーマにした学習をしてきました。

四・五年生の時から、社会見学や宿泊学習で石にかかわる体験をして、石への関心を高めてきました。が、六年生では、「高遠石工(いしく)」がこの近くでとれた削りやすく壊れにくい性質をもった「青石」(輝緑岩)を使って多くの石仏を作ったことを知り、自分たちでも、河原の石を拾って削り、作品づくりをすることにしました。

この活動には、高遠町総合支所長の山崎大行(ひろゆき)さんを講師にお願いして、石のお話や削り方などを教えていただいています。

伊那市のホームページに「三峰川では、日本で一



山崎さんに、機械を使って削ってもらっています。自分の石が、どのように削られていくのか、じっと見えています

番多くの種類の石を探すことができます。一説には、日本全国の石のうち七十から八十%の石を拾うことができます。」とあります。六年生の皆さんは、近くの三峰川の河原で拾ってきた石を削って加工する活動に取り組みました。削る方法は、紙やすりやグラインダーを使用しますが、児童の皆さんは、みんな削る作業に熱中して取り組んでいました。



削り終わって、色をつけているところです

また、伊那市ホームページに、「『高遠石工』は、優れた腕を持ち、全国各地に出向き、出張先で石仏や石塔、石橋、鳥居、石垣など様々な石造物を造りました。」とあります。

この後、児童の皆さんは、「高遠石工」についての学習を深め、先日の修学旅行では、江戸城の石垣やお台場砲台の土台など、高遠石工が現在に残した作品を見学したり、高遠藩主内藤家一七代藩主内藤頼誼(よりよし)さんのご子息頼克(よりかつ)さんから



機械で石を削ります



紙やすりで仕上げます



みんなで楽しく作業に取り組んでいました

二)に関わって「東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校」の生徒さんたちと交流や体験をしたりと、「石の学習」は次々と新たな活動を生み出す素晴らしい取り組みとなっています。今後、どのような活動がおこなわれていくのか楽しみます。高遠小六年生の皆さん、先生方、ありがとうございました。

ごんげんまなびや応援隊 (西春近北小)の活動から

《放課後学習「西春タイム」》

西春近北小学校では、放課後学習「西春タイム」を平成二十九年年度からはじめて、六年目となりました。



この日はまだ残暑の厳しい日でしたが、冷房の効いた環境の部屋で、講師の先生に教わったり友だち同士で教え合ったりしながら、楽しく集中して学習に取り組んでいました。児童の皆さんに、参加の動機や感想を



聞いてみると「もっと、勉強ができるようになりたいから。」去年も参加して楽しかったから。」、「西春タイムは、集中して勉強ができる。」、「教え合ったりできる。」「先生たちも細かくしっかり教えてくれる。」といった声を聞くことができました。

児童の皆さんが帰った後、講師の先生方は、児童の理解の様子や児童同士の教え合いについて話題にされていて、「西春タイム」がさらに良くなるように考えていただいています。

《全校ウォークラリーの支援》

全校ウォークラリーは、一、六年生の縦割り班を十五班編成し、各班で九つのチェックポイントをまわり、クエスト(問題)を解いてゴールを目指す行事です。

西春近北小ボランティアの皆さんは、各チェックポイントで、クエストを達成した班の写真をiPadで撮ったり、「QUESTシール」を貼ったりします。

当日は、天候に恵まれ、児童の皆さんは、元気いっぱい楽しく活動し、ボランティアの方も児童の皆さんに様々な声掛けをしながら、活動を支援していました。

放課後学習やウォークラリーの様子を見ると児童の皆さんと応援隊の皆さんとの関係がとても良い雰囲気です、お互いに楽しそうでした。

他にも、応援隊の皆さんは、読み聞かせ、行事体験支援、環境支援など、様々な活動で学校とつながり、支えていただいています。

応援隊の皆様、児童の皆さん、先生方ありがとうございました。

小出城跡や貫道学校跡など 地域の名所をまわります

クエストに取り組む児童を見守るボランティアさん